

令和7年度第2回防府市図書館協議会

■日時：令和8年2月16日(月) 午前10時30分～正午

■場所：防府市文化センター 市役所本館8階

■出席委員 6名(欠席4名)

■傍聴者 なし

■議事録

○事務局

令和7年度第2回の防府市図書館協議会の開催をいたします。

それでは、防府市図書館協議会規則の第三条第1項により、これからの会議につきましても、藤村会長に議事進行をお願いできればと思います。

よろしく申し上げます。

○議長

本日は、ようやく春めいてきた中、御多用のところお集まりくださいますありがとうございます。図書館がより一層充実発展していきますよう、御協力よろしく申し上げます。

それでは、今回の会議につきましても、前回と同様に、会議及び会議記録につきましても「公開」ということでよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声)

では、「異議なし」ということで、公開を進めて参りますのでよろしく申し上げます。

では、これより議事に入ります。

令和8年度事業計画について、事務局から、御説明をお願いします。

○事務局

今年度第1回目の協議会で、令和6年度実施状況の評価をいただきました。

今回の会議ではこれを踏まえて、令和8年度の図書館の事業計画を作成しております。

図書館の事業計画は、指定管理者である防府市文化振興財団の事業計画の一部でもあるため、財団の理事会及び評議委員会を経て、正式決定となることになっております。理事会は先日2月12日に終わっておりますが、評議委員会の方は今月末でございます。そのため、本日は(案)の段階ではございますが、協議会委員の皆様には御説明をさせていただきたいと思っております。

さて、本日は、図書館から令和8年度の図書館の事業計画を御説明し、事業内容や進め方についての御質問や御意見をいただきたいと思います。と存じます。

なお、1度にすべての御説明をすると長くなりますので、まず大項目1で一旦区切りまして、以降、大項目2つずつを一緒に説明して参りますので、よろしく

お願いいたします。

それでは、図書館長から御説明いたします。

○館長

皆様おはようございます。

防府市立防府図書館館長の幸田でございます。

今日は、令和8年度の事業計画(案)について説明いたします。

ではまず、1ページ、1「誰もが等しく学べる、豊かな資料と機能を持つ図書館」ということで、(1)-①資料収集業務です。

防府図書館では、来年度も「防府図書館資料収集要綱」に基づき、適正な選書収集を行います。図書購入目標冊数は昨年と同様、7,500冊。うち一般書5,700冊、児童書1,700冊、郷土資料100冊となっています。

それから、電子書籍購入数目標冊数は1,200冊となっています。昨年の電子書籍購入目標冊数が、1,500冊でしたので、減っておりますけれども、これは、電子書籍の単価が上がっていることによります。

次に、(2)老若男女を問わず、様々な立場の人が、誰でも気軽に楽しく利用できる図書館の①コンピュータシステム管理業務です。三つ目をご覧ください。契約期間満了につき、12月にシステム更新を行います。

また、②情報発信(広報)業務ですけれども、引き続き、ホームページの整備、充実を図るとともに、定期的なイベントや各種展示について、積極的にInstagramに投稿していきます。

さらに(3)図書館から遠いところに住んでいる人にも、サービスできる図書館でございますが、①移動図書館車「わっしょい文庫」の運行に加えまして、②電子図書館を運営していきます。

大項目1について、説明は以上です。

○議長

では、ただいまの御説明に対する、御質問、御意見ございましたら、いかがですか。

私の方から(2)-①について質問します。12月にシステム更新ということですが、これは広島情報シンフォニーですか。

それで、そのときに、できましたら他の図書館の生成AIの活用のごとも、お尋ねになるとか、御相談されるといいのではないかと考えておりますが。

○館長

現在の図書館システムの会社である広島情報シンフォニーには、その要望を伝えております。これから12月までの契約の間いろんな情報が入ってくるかなというふうに思っています。生成AIにつきましては、どういう感じで、広島情報シンフォニーがやってらっしゃるかというのは尋ねております。

○議長

それと(4)のレファレンス研修の①です。

山口県図書館協会には、いろいろな研修がありますが、情報連携部会とか、そういったものもありますので、A Iの活用なんかについて、研修があると良いなと思っています。

図書館からの要望として、レファレンス研修での生成A Iの活用とかの要望を出して行かれたらどうかと思っています。

○委員

わっしょい文庫に関しては、全域サービスのひとつですが、図書館から遠方に住んでいる児童や障害者など、交通手段のない方は、図書館に来ることができないため、是非とも続けていただきたいと思います。

他市では、サービスをやめてしまおうという話が出たと聞いています。やめてしまうのは簡単なことですが、利用が少なくても、続けることが大切だと思っていますので、よろしくお願いします。

○館長

移動図書館車は、小学校にも行きますけれども、老人施設ですとかそういったところにも行っております。体が不自由な方や移動手段がないような方にも御利用いただいているというふうに聞いております。

○議長

山口市の場合は市町村合併のときに、山口市には市立図書館があり、他の町にあった図書館はそのまま地域図書館として残されています。合併の際には、既に移動図書館車も走っていました。

防府の場合は、ルルサスの中に本館が1館しかないなので、ぜひ移動図書館車は、続けていかれる方が良いと思います。

県内では、県民一人あたりの図書館貸出冊数が、5.5冊と言いましたが、防府の場合は、5冊いっておりません。昨年、図書館サービス振興基本計画の中で、5冊を数値目標として掲げましたけど、各地区に図書館があるのが望ましいところに、本館が1館しかないので、ぜひ移動図書館車を続けていただけるとありがたいなと思っています。

○館長

承知しました。

○議長

他に、いかがですかね。

それでは、大項目2と3についてお願いします。

○館長

それでは2ページ、2「地域の人々と手を携えて、豊かな交流の場を創る図書

館」の(1)-①、ボランティア団体・生涯学習グループ等との協働推進業務というところでございます。

来年度は、5月31日(日)に第15回「防府市子ども読書フェスティバル」を、10月18日(日)に第36回「防府図書館まつり」を開催します。いずれも各実行委員会、ボランティア団体、それから高校生ボランティア等と協力しまして、両イベントを開催していきたいと思っております。

次の項、3「生涯学習活動の拠点として、集会文化活動に力を入れ、地域の力を高める図書館」ですけれども、(1)-①、イベント・懇談会業務の1つ目をご覧ください。

第15回「防府市子ども読書フェスティバル」におきましては、児童文学作家の富安陽子先生をお招きして講演会を実施します。富安先生は「まゆとおに」、「菜の子先生」シリーズなど、たくさんの児童書が出版されておられます。おそらく楽しいお話が伺えると思っております。

直近3回の「子ども読書フェスティバル」では、絵本作家の先生をお招きして、工作などのワークショップを行いましたので、来年度は少し趣が変わるかなというふうに考えております。

大項目2と3は、以上です。

○議長

御質問、御意見ありましたら、どうぞ。いかがですかね。

それでは、私から質問をいたします。2-(1)で、様々な図書館事業を利用者と協働して行い、学習交流の場、コミュニティセンターとしての機能を持つ図書館ということで、1階に生涯学習課の文化センターがありますので、連携・協力をいろいろとされているかと思いますが、こういった形でされていますか。

○館長

図書館では、職員が、おすすめの本というのを、ピックアップしまして、ポップにして展示をしました。館内での展示後、1階の文化センターにお渡しして、掲示し、見てもらっているようなこともやっております。

直接的な交流はあまりないのですが、できることは採用していく所存です。

○議長

それから2-(1)-①で、「防府図書館まつり」の際に、各サークルの活動報告の展示をされますけど、昨年は、図書館の取り組みについて、新規に展示をされていきましたね。ちょっとした機会をとらえて展示をするのは、良いことかなと思っております。

○館長

ありがとうございます。

いつもは、「図書館まつり」のときに、図書館の中で「クイズでビンゴ」とい

うイベントをやっていたのですけれども、今年度は「クイズでビンゴ」ができなかったので、図書館の1つの活動として、展示をさせてもらった次第です。

○議長

3-(1)-②の展示のところ、昨年からはじめた、中学生の「図書館クラブ」のこどもさんたちがブラウジングコーナーで、展示をされていると思います。この点について聞きたいところです。関わっておられる委員さん、どうですか。

○委員

今年度は、「図書館クラブ」の生徒の方に、ポップを作ってもらって、展示をさせていただくというのを企画し、図書館の方をお願いに行きました。その際に、展示する期間が取れますよという御返事をいただきました。その後、図書館職員さんが来ていただいて、最初に、展示をする意味とか、なぜこの展示をするのかという意味をしっかりと教えていただいたうえで、展示をしました。

撤収の際には、この展示をした後、どういうことを図書館ではしているのかという話、また、図書館のポップがどれぐらいの効果があったのかというのを報告していただきました。それによって、今の生徒たちが、また来年度、頑張ろうという気になっています。本当にとっても良い機会をいただいたと思っております。

しかも、その時にビブリオバトルの宣伝もしていただいたのがきっかけで、やる気になっている子もいます。図書館にちょっと来て、何かをやるというのではなくて、本当に図書館との交流というか、図書館でやる、図書館クラブの意味をしっかりと伝えていただいた良い機会になりました。この場を借りて、ありがとうございました。

○議長

こどもさんたち、頑張っておられるようですね。

他にありましたら、はい。

○委員

意見ではなくて、先ほど、移動図書館車の件について、走っていて当たり前のように思っていることが、いつなくなるかわからないということを考えつつ、なくならないようにするのが大切だと思います。

そして、防府の素晴らしいところは、防府には歴史があるので、いろいろな種類のボランティアの方たちがおられます。だから、他でも普通にやっていると思うようなことも、実は、やっていなかったりすることが多いです。ただし、無理のない範囲内で、ボランティアさんたちがいきいき参加するというのが大事です。当たりの日常ではなくて、これは皆さんの努力であり、図書館も支援していくという気持ちの表れだと思っています。ビブリオバトルとかイベントというのは、皆さんの英知が集結してできていることで、決して当たり前ではないということを忘れてはいけないと思っています。

さて、もう一つは、前から言っていますけれども、高校生の図書館まつりへの参加の話です。ブックリサイクルのお手伝いなどに高校生がボランティアで入っていますが、高校生が受験や試験週間でなければ、図書館でクイズをやってみるとか、イベントを企画する側、運営する側などで入ってもらったらどうかと思います。これも無理のない範囲で、お願いします。

本当に、当たり前と置いていたものが、いつなくなるかわからないということも考えつつ、なくならないようにするというのは、大切なことです。防府には、多くの素晴らしいボランティアが、様々な活動をしておられるということでもあります。

○館長

高校生のボランティアは、高校にボランティアクラブというか、部活動があるので、春先には先生に御挨拶に行ったり、お願い状を出したりしておりまして、高校生は学校を通じて、参加の連絡が来ます。

昨年の図書館まつりには、図書館まつりのチラシを見て、個人で参加された中学生が、2、3名こられました。そういう意識がある子は、チラシの裏を見て来てくれますので、そういうのも広がると良いなと思っています。高校生については、ルートがあるので、割とお願いをしやすいのですが、中学生からの申し出があるというのを御報告しておきます。

○議長

それでは大項目 4、5 についてお願いします。

○館長

それでは、3 ページの、4「地域の歴史や文化を大切にするとともに、国際理解を深めていく図書館」の(1)地域(郷土)資料を、積極的に収集・整理・保存・提供する図書館についてです。

①防府図書館は、地域資料、特に防府市に関する資料や、防府出身の郷土作家の資料の収集を積極的に行います。来年度は、今年度と同様、資料収集目標冊数を 450 冊としています。

次に、大項目 5「様々な教育文化施設とのネットワークを進め、サービスする図書館」の(2)他の図書館や博物館・美術館との相互協力を推進する図書館の②財団内連携業務です。

図書館は、財団内のアスピラートと三友サルビアホール及びソラールで開催される企画展やイベントに合わせて、関連資料を展示するなど連携企画を行います。

具体的には、今月 21 日土曜日からアスピラートで開催される、絵本作家のヨシタケシンスケさんの展示会「ヨシタケシンスケ展かもしれない」ですが、図書館におきましても、同時期に企画展示を行います。図書館には、先日、たくさん

の絵本が運ばれてきまして、これからどのように展示するかについて、今、職員がアイデアを練っているところでございます。

それから(2)-(3)行政との連携業務ですけれども、令和7年度は、市の高齢福祉課と9月に認知症月間に合わせて連携企画を行いました。来年度も開催予定です。

そして、今年1月には、山口地方法務局から連携の話がございまして、遺言とか相続とかに関する資料展示をしてほしいというお話でしたけれども、合わせてパンフレットを置きました。利用者が、パンフレットをたくさん持ち帰られております。図書館に足を運ばれる方の興味が、そういったところにあるのだなあというのを感じました。結局、パンフレットは、3回も運んでもらった次第です。

さらに、これに加えまして、来年度は、市の環境政策課からお申し出がありまして、6月の環境月間に合わせて環境に関する資料展示等を行っていく予定でございまして。

大項目4、5につきましては以上です。

○議長

ただいまの御説明に対する、質問、御意見がございましたらお願いします。

4-(2)-①の関係で、昨年、上山満之進翁の展示会が市役所でありましたが、その時の資料は、図書館からも出されたわけですか。

○館長

はい。資料につきましては、70点ほど貸出しました。それから、図書館に入ったところにある、とても重いブロンズの胸像や大礼服、位階服といったお洋服をお貸ししております。それから、三哲文庫が始まったときの表札や額縁入りの遺墨(書)をお貸ししておりました。

○議長

私が見に来たときも、結構、観覧する方がおられて、改めて上山翁の偉大さを感じた次第ですけれども。

○館長

特別展、とてもよかったというふうに、多くの人から、感想をいただいております。

○委員

先ほど紹介があったように、イベントを見ても他部署との連携にしても、図書館の活動がとても盛んですので、大変だろうなあと思っています。

小学校では、特に貸出文庫として40冊の本を、学年ごとに借りておりまして、大変御世話になっております。

以前、私が小野小学校に勤務していたときは、移動図書館車が小学校に来てくださっていて、こどもたちは移動図書館車を見て、大変喜んでいたのを覚えてい

ます。ただ、移動図書館車は広域サービスとしてなので、中心市街地では、あまり見かけることがありません。子どもたちは見ることもないまま小学校生活を終わってしまいますので、何かの催し物でも、移動図書館車を見ることができたらいいなあと思っているところです。

○館長

お申し出があれば、学校と連携して移動図書館車の出張サービスをしています。

今年は、玉祖小学校 2 年生の社会の授業で申し出がありましたので、調整して出張しました。

移動図書館車の運行が水・木・金曜日で、火曜日が休館日です。お申し出があれば、調整して出張サービスさせていただいていますので、よろしく願いいたします。

○委員

1 点お聞きしたいことがあります。5-(1)-①で、学校司書の研修の機会や場の提供についてです。このあたりを、わかる範囲で教えていただけますか。どういうことをやっているのでしょうか。

○事務局

学校司書は、学校の図書館だけでは、見られない資料等がありますので、図書館の方での研修を、年に何回か設けております。その際に図書館に行って、資料の勉強をするとか、選書会の準備をするとかをしています。

あと、図書館には一般の方には貸出をしないで、学校に特別貸出をする学校支援図書というのが置いてあります。その入れ替え等で、学校司書が勉強も兼ねて行くということなどをしております。

それから、ここ最近は行っておりませんが、例えば、図書館から職員を招いて、図書館の機能について学んだり、著作権の勉強をしたりというところを研修で取り入れたこともあります。

○議長

5-(2)で、7 市町の図書館で連携して、共催事業をされていますね。以前には、田中さんのチェロの演奏会や、去年は森川さんの方言でした。令和 8 年度は、何か企画されているのですか。

○館長

来年度の計画は、これから決まっていくのですが、**「ナナシマチの図書館をめぐるスタンプラリー」**は、元々**「山口県央連携都市圏域ビジョン」**といたしまして、観光や雇用、それから起業といった、商工会議所、行政、そういったものが中心となってやっている事業です。この中に、地域の公共施設の共同利用をしようということで、7 市町の図書館が連携して、令和元年からスタンプラリーを

やっています。令和 4 年からそのビジョンが第二期となりまして、各市町でイベントをやる中で、参加者はスタンプを集めていきたいと思いますということでございます。

防府図書館では、令和 4 年には山頭火ふるさと館の高張学芸員に講演を、それから令和 5 年度、6 年度には田中雅弘さんのチェロのコンサート、今年度につきましては、森川元館長の講演会ということで、特別なイベントを行って、他の 6 市町の方々にも来ていただくことを目指しました。その効果により、「ナナシマチのスタンプラリー」への参加者が、昨年より応募が多くなってきております。だんだん広まってきたなあというところでもございました。

○議長

田中雅弘さんの演奏会のときは、山口市の人なんかも来ておられましたね。

○館長

田中雅弘さんのコンサートは、大変人気があって、ブラウジングコーナーで開催しましたが、ちょっとキャパシティオーバーというか、パンクしそうになりましたので、少しお休みをしているところでございます。

○議長

それでは、大項目 6、7 についてお願いします。

○館長

それでは 4 ページ、6 「こどもたちの読書活動を進めていく図書館」(1)－①、こども読書活動推進業務ですけれども、記載のとおり、各種事業を積極的に行っています。

特に、「令和 8 年度防府図書館を使った調べる学習コンクール」ですが、防府市教育委員会と共催いたします。より多くの児童生徒さんに御参加いただけるよう、先駆けまして、「チャレンジ！調べる学習」を夏休み開始前の日曜日に行います。

同じく 4 ページ、7 「障害者や高齢者に優しい図書館」の(1)障害者や高齢者が、気軽に楽しく簡単に利用できる図書館ということで、ホームページに障害者等用サービス「ひなぎくネット」を掲載しておりますけれども、これはサークル「翠の会」さんの協力を得て、音訳をしていただきましたので、【音訳ページ】を掲載し、4 月から供用を開始いたします。

次に(2)視覚障害者や高齢者のための対面朗読、音訳図書製作、郵送貸出などのサービスを積極的に行う図書館というところです。

伊藤忠記念財団が、音声と文書、画像のデータを持っていて、マルチメディアデジターを作成し、全国の図書館や学校に無料配布するという事業を行っております。

マルチメディアデジターというのは、音声と一緒に文字や画像が示され、表示

されるデジタル図書のこと、通常の本を読むことが困難な発達障害、知的障害、肢体不自由や視覚障害の方に、非常に有効だというふうにされています。この事業に(3)障害のある利用者のためのボランティア活動を奨励し、その育成を図る図書館にも絡みますが、郷土紙芝居の「おしょうなまず」の音声の部分を「翠の会」さんに受け持ってもらい、文章等のデータを図書館が準備して、この伊藤忠記念財団に送り、マルチメディアダイジ化していただくという事業を予定しております。

大項目 6、7 以上です。

○議長

ただいまの御説明に対する御質問、御意見をお願いします。

図書館ボランティア「まーぶる」では、親子読書コーナーや、お話のへや、それからこどものコーナーの飾りつけをされていますが、メンバーは、どういった方ですか。関わっておられる委員さんに聞きたいのですが。

○委員

はい。「まーぶる」に関わっておりますので、お答えします。今、参加してくださるのは、8 人ぐらいです。学校図書館関係の人で立ち上げたサークルですが、その後、図書館のサークル会員募集を見て、御電話されてこられた方や、「図書館クラブ」の御世話をされている方にも声かけたら、快く入っていただいて、少し広がりが出ております。

活動は、3 か月に 1 回ですが、和気あいあいとしゃべりながら、手は動かすということで活動しております。

それから「まーぶる」は、「子ども読書フェスティバル」で、ワークショップの開催をやっておりまして、こちらは 8 人では少し難しいところがあるので、他のサークルさん達とも連携しながらやっていきたいと思っております。

○議長

先生方は、ご存じかと思いますが、この度の毎日新聞等が主催の全国コンクール「青少年読書感想文コンクール」に、昨年が続いて、牟礼南小のこどもさんが、入選されています。2 年連続というのは本当珍しいですね。

全国から応募があり、ものすごい数の中からの入選ということになると本当に、すごいなと思っております。しかも、2 年続けてというのはですね。

それから、先ほど館長から紹介があった伊藤忠記念財団についてです。これは、伊藤忠商事がされている図書館活動の応援ですが、これは昨年、亡くなられた会長だった丹羽宇一郎さんが、本当に大変な読書家だったようで、その丹羽宇一郎さんが、自分たちの学生時代には読むものが決まっていた、例えば「チボ一家の人々」とか、「ジャン・クリストフ」とか、読むものが決まっていたというようなことを書かれていました。私もその時代ですので、同感しましたが、伊藤忠商

事、伊藤忠記念財団は、ありがたいですね。

それから「調べる学習コンクール」についてですが、上山賞に、上山翁自体を対象にした作品が出てくると、良いなと思っています。

それでは、全体を通して何か御意見ありましたら。

では、冒頭に申しましたように、日頃、図書館について、思っておられること、御要望、御提案など、お気づきの点をお話しいただければと思います。

○委員

今、一番思っているのが、児童書の展示のところの、本の探しにくさについてです。特に毎年お願いしているのが、紙芝居のところなんです。去年のこの時期に、せめて新刊の紙芝居がわかるように、別にならないかということをお話したのですが、紙芝居のところは難しいのかなあとは思っています。以前、実際に某市の紙芝居コーナーがすごく変わったということがありましたので、せめて、もう少し紙芝居のところをわかりやすい展示にさせていただけると選びやすいのかなと思います。

あともう1つ、弱いと思っているのがヤングコーナーというか、ティーンズコーナーです。例えば、ヤング図書のコーナー前でのミニ資料展示の定期的な実施について、確かに展示は良いのだけど、ヤングに対するものやティーンに対するものが、弱い気もしています。もう少し、ある程度10代に対するものは欲しいなと思っています。たまたま、某市の「トーク&カフェ図書館は友達『シリーズ理想の図書館』」に毎月参加していて、そこでティーンズのことを聞いたときに、その市の図書館は、中学校、高校と連携して、図書委員と話をし、本のポップを作ってもらったり、実際にその中学校図書館と高校図書館と結びつき、子どもたちに実際、図書館で展示をしてもらったりすることによって、子どもも来るし、それを見た大人も本を借りるといったティーンズに対するところが強いので、防府ももう少し、ティーンズコーナーが変わってくると、10代に対する何かアプローチがあると違うのかなとは思っています。

防府図書館は、本の展示もとても良いし、すごくやってらっしゃるのは評価しているのですが、例えば、絵本大賞が決まりました、こんな本が選ばれましたとポスターを貼ってあるけど、そこにちょっと、その本が置いてあると、また手に取りやすいのかなという思いはあります。

○館長

まず、1つ目の紙芝居については、新しいものが、本と違ってどんどん出るわけではないです。そのため、新しい本が置いてあるところに、必ず新しい紙芝居が入ったら表示がありますので、それを見ていただくという形が一番良いかと思っています。新しいものが届いたら、新刊紹介のところに紙芝居の紙がありますので、それをご覧いただくと良いかなと思います。紙芝居は、月1回の整理日には

きれいにしますけれども、利用者が引っ張り出したのち、適当に戻されることもあるため、御迷惑をかけるかなというところです。

それから展示ですけれども、おっしゃる通りティーンズのところが、どちらかというところ、こども向けかなという感じがしますよね。奥の児童書のところにもあるのですが、御指摘のコーナーがティーンズ、YA(ヤングアダルト)とか向けであるとするならば、職員が順番で担当しますが、その辺の心持ちというのは伝えたいなと思います。ただYAは、意外とティーンズというか、高校生じゃなくて、結構高齢というか妙齢というか、そういう方も、最近では利用している方がおられます。40代、50代男性の方とかです。別に高校生とか中学生だけということではなく、YAの本は読みやすいのがきっかけで広がっているところもあると思いますが、展示につきましては、少し考えていきたいかなと思います。

○議長

中高生の図書委員さんとの連携って、良い御提案ですね。

○委員

中学校で電子図書館について、もっとアピールしてみたら良いかなというふうに思っています。電子書籍のラインナップをみたら、中学生向けかなというのが、いっぱい入っています。まだ、カードを作っていない人に、こうやって利用するというのを、どこかで積極的にアピールしてもらいたいなと思っています。

それと、先ほど少し話が出ましたが、山頭火ふるさと館との連携がもう少しあると良いかなと感じています。せっかく記念館があるので、財団内連携ではないので難しいかもしれませんが、知識や資料を使用して、図書館で展示ができれば良いかなと思いました。

○館長

山頭火はですね、月に1回、今月の句というのがあって、送ってくださっているので、それはいつも掲示していますし、句を募集する箱も置かせていただいています。

○議長

中学校の状況については、いかがでしょうか。

○委員

中学校の状況について、何度か申し上げたこともあるかなと思いますが、各中学校で読書タイムがあります。朝、毎日している学校がどれぐらいあるかわかりませんが、1週間のうちに何日かは、朝10分程度の読書タイムを設定して、学級文庫としてクラスに設置している学校図書館の本を読むというふうな活動をしています。

それから学校司書さんは、どの学校でも積極的に、それから丁寧に活動されているようです。本校でも掲示であったりとか、昼休みに本の紹介をされたりとか、

本の福袋といったイベントもされています。様々な取り組みを工夫して、図書の貸出であるとか学校図書館の利用の拡大を図っていただいているところです。

先ほど、中学校のボランティアの話もありましたが、今年度から、公立高等学校では特色選抜というものが始まっています。これは、中学校の校長が高等学校に推薦するという仕組みではなく、各高等学校の推薦要件に合う生徒については、自分から特色選抜に出願するというふうな形になっています。

おそらく、商業高校ではボランティア活動にも力をいれていらっしゃるのでは、評価していただけないのではないかと思います。各校の推薦要件等については、公開されていて、見ることはできるのですが、他校においても、ボランティア活動をもっと評価していただいても良いのかなと思います。

例えば、大学進学が多い学校であっても、社会貢献については、当然必要になってくると思いますし、またそれが地域連携であるとか、地域振興にも繋がってくるのかなというふうに考えますので、そういうところを高校でも、しっかり見ていただけると良いのかなと思います。

また、電子図書館につきましては、私も今年、各校で電子図書館の活用について、中学校教育研究会の学校図書館部会の先生方に聞いたところ、あまり活用はないようでした。著作権の問題もあるので、授業で活用するのは、なかなか難しいと思います。それから、校長として、電子書籍を積極的に進めていくには、情報機器の長時間使用という問題があるので、学校として全員分のカードを作ってくださいということが少し進めにくいというふうに思います。

私がこどものころに比べると今、本屋さんの数が減ってきていると思うのですが、昔は、本屋さんで本を買わないと情報が手に入らないわけです。例えば、釣りに行こうと思ったら、釣りの本、釣りの情報というのが、本屋さんや図書館に行かないと得られない。それで、それを買っておくなど、手元にないと釣りに行くときに釣れる魚や仕掛けが分からないということがあったと思うのです。

昔は積極的に手に入れに行かなければいけなかった情報が、今は幸せな時代で、いつでもアクセスできるという状況なわけですから、そのあたりが時代としては違うのかなと思っています。

それから、私は理科が担当で、小学校の頃は、よくSFの小説を読んだ記憶がありますが、今は、SF小説がとて少なくなっているのではないかと思います。ハリーポッターなど、ファンタジー小説は、結構読まれているようなので、科学技術が進化したということもあるかもしれませんが、科学が好きな生徒に向けた本もあると良いと思います。

○委員

先ほど、他の委員さんが言われた、中学生・高校生をしっかりと連携して活用するというアイデアですが、本当にすてきなと思います。プレッシャーをかける

ということではなくて、中学生や高校生が、何らかの働きかけをしたことが目に見える形になって、市の図書館の運営に少しでも関わることになれば、それでまた、中高生の輪が広がっていくと良いなと感じました。ただ、学校図書館に積極的に関わろうというこどもというのは、正直なところ、そんなにいないかなと思うのですが。

本校で「読書が好きですか。」という、アンケートをとったところ、400人中、70%が好きだと答えたのです。同じ質問を保護者にしたところ、半数でしたので、学校では、とても頑張っているつもりではあります。20年来の読み聞かせボランティアを活用したり、それから学校司書さんにもすごく頑張ってもらって、お昼の放送で本の紹介していただいたり、いろいろな取り組みをしていますが、やっぱり70%なのですね。家庭での環境がどうかなあというところもあり、なかなか学校だけでは、如何ともしがたいところもあるなあというのが正直なところでは。

確か、以前の会議でも申し上げたことがあったと思うのですが、現在の高校生の不読率、1か月に1冊も本を読まない割合が、もう半数であるということです。先ほど話ができましたけれども、本屋も少ないため、紙媒体の本に触れるということ自体が、どんどん減りつつあるという現状で、どうしようかというところでは。

これを実際の学習の場面に目を向けると、こどもたちは、長文がなかなか読めないのです。文章把握力が、10年前と比べて格段に下がっていると感じます。さらに、もっと突っ込んで言うと、書く力や記述する力もだんだん落ちてきています。この辺に、大変、危機感を感じているのですが、学校現場において、そういった面でも、本を読むとか、いろいろな表現に触れる、たくさんの語彙に触れるということは意義があるよというのを、保護者の方にもお伝えしていきたいなというふうに思います。

○議長

ありがとうございます。

○委員

今、私たちの生活の中にA Iがどんどん入ってきています。もしかしたら長文はA Iが書けるかもしれないですが、誰が書いたものかわからないというようなことになってくるので、学校の先生方はその辺の対応が、大変になってくると思っています。何も考えなくても、A Iが全部答えてくれる世界になってくるということです。私は、今こそ先生がおっしゃる紙媒体だと思っています。紙媒体を利用するようにすれば、考えるとか書くとか、まとめるとかそういうことができるようになるので、お話を聞きながら、どうやったらいいのかなと思った次第です。

それから学校図書館クラブの活動紹介の中で、ポップを作るという話です。普通は作るだけで終わると思うのですが、作る意義があるのかとか、終わった後にどうなるのかとかいう話です。これが難しいのです。やるようでやらないことなので、素晴らしいことだと思いました。

それから驚いたのが、移動図書館車のことを申し上げた際に、学校には回るけれども、図書館周辺の学校には回っていないとのことでしたが、館長がお答えの中で、「柔軟に対応します。」と言われたことです。良い意味で、不思議な気がします。なぜなら、移動図書館車を持っている他の市町は、コースが決まっていて、柔軟な対応というのは、おそらくやりづらいと思うのですよね。それを対応が可能だという姿勢が、何か素晴らしいなと思いました。

さらに、市の環境政策課からの申し出により連携をするということをお聞きしました。通常だと図書館側から連携を呼びかけることが多いと思うので、市の各部署に図書館との連携ということが浸透してきているのがすごいです。図書館はこういう動きをしているから連携をすれば、すごく画期的なことがあるということがおわかりになっていらっしゃるのかなと思って、これも大変素晴らしいところです。

それから、中高生の話が出ましたが、もう1歩進んで、大学生はどうでしょうか。高校までは、アンケート調査でなんとか不読率が出ますが、大学生は出ていないような気がします。大学生も試験のときには、教科書を読むということがあるので、さらなるところを言うならば、市内にいらっしゃる大学生とか、他市から来られる大学生の方との連携が必要かなと思いました。

最後にシステム更新について、質問です。業者はプロポーザルで、決められるのですか。さっき業者名をおっしゃっていましたが、もう、どこかに決まっているというようなことがあるのか、その辺をお伺いしたいなと思いました。

○館長

決まっておりません。

ただ、システム更新は非常に高額になります。現在の図書館システムは、広島情報シンフォニーという会社と契約し、使用しております。入札で他社のシステムが安価であったとしても、現在のデータを移行する必要があり、これが高価になると考えられます。

さらに、他社のシステムを導入することになると、図書館職員も新しいシステムを1から勉強する必要があります。これらを考えあわせると、図書館職員も利用者もなるべくいい方向に進むと良いなと思っています。

あと、大学生につきましては、多くのインターンシップの研修を受けております。お申し出があれば、重ならない限りは、すべてを受けておりまして、小学生や中学生の職場体験や、10年たった先生方の研修もあります。そのインターン

シップの方々は、司書課程の方も多いので、とても興味を持って取り組んでおられます。

○委員

インターンシップは単位と関係があると思うのですよね。それで、頑張るといふのはあると思うのですが、そうではなくて、高校生や中学生も授業の単位と関係ない方との連携を図ると、小中高大、すばらしい縦の繋がりや横の繋がりになるなと思いました。そして、そこにインターンシップとか図書館実習とか来た人に、何か「図書館まつり」のことを誘っていくと、よりすばらしい防府市になっていくのではないかなと思っております。

○議長

紙媒体と電子媒体のことにつきましては、この前の「子ども読書活動推進連絡協議会」にも出ていましたけど、スマホの活用については、よく確認しないといけません。スペインもオーストラリアに倣って、16歳未満に禁止するということですね。日本でも、愛知県の豊明市で、成人に向けても制限をかけるというのは、条例ができたとかということですね。

これから人類は、どういうふうにAIと向き合っていくかというのは、本当大変な課題ですね。

古い話になりますが、私の山口図書館協会での思い出では、「山口県の未来を拓く山口2001年図書館像」という図書館計画を山図協で策定しました。その当時の会長が、指導力、活動力ともに大変すぐれた元周東町立図書館長の山本さん、現・山陽小野田市立図書館館長のお父さんでした。計画策定の過程で、県立図書館に委員が集まって会議をしたり、周東町立図書館や会長宅にも行って、いろいろ打ち合わせをしたりしたのを、いまだによく覚えております。

それから、学校図書館の中国大会、中国5県の大会が下関であったときに、自動車で行って、下関インターで降りなきゃいけないところを、小月インターで降りてしまったため、中国地区の学校図書館大会で、関係者として壇上に並んで、紹介されたら立ち上がって、御辞儀をする場にはいないといけないところを、ぎりぎり間に合って、皆さん並んでいるところに駆け込んだようなこともありました。開会式の直前につきまして、本当に大変でした。

でも、今やもう免許も返納しないといけない年齢になってしまいましたけれども、買い物とか、お医者さんに行くのに自動車がないと、どうしようもないので、できればAI運転の本当自動電気自動車が、普及すると良いなと思ってます。なかなか難しいでしょうね。

それではその他、事務局から何かございましたら。

○事務局

今年度の図書館協議会は、これが最後になります。

令和 8 年度第 1 回目の協議会では、令和 7 年度の図書館事業の評価をしていただくことになっております。まず 6 月ごろに図書館が自己評価をしまして、その結果を委員の皆様にお送りします。委員の皆様には評価シートに御意見をいただきまして、それを元に図書館管理室で資料を作成し、会議ではコメントを御確認していただくという形で考えております。

開催時期は 7 月を予定しております。

○議長

長時間にわたり、御協議いただきましてありがとうございました。

本日は、令和 7 年度の第 2 回目の会議でしたが、来年度の図書館事業計画について御説明を受け、御意見をいただきました。

今後とも、生涯学習の中核施設、また、町の情報文化拠点として、図書館が一層充実、発展していきますように、御協力をよろしくお願いいたします。

これをもちまして、本日の議題等についてはすべて終了しました。

委員の皆様、ありがとうございました。

○事務局

それでは以上をもちまして、令和 7 年度第 2 回防府市図書館協議会を終了いたします。

皆様本日は長時間にわたり、ありがとうございました。

気を付けてお帰りください。